

# モーツァルティアン・フェライン 事務局レター

【第 255 号】2018 年 6 月



【編集】澤田義博 / 松永洋一 / 高橋 徹 / 大野康夫 / 笠島三枝子 / 堀尾藍 yiu26747@nifty.com

【ホームページ】[http://www.geocities.jp/mozartian\\_verein/](http://www.geocities.jp/mozartian_verein/) 【事務局】笠島三枝子 (TEL090-5320-2145)

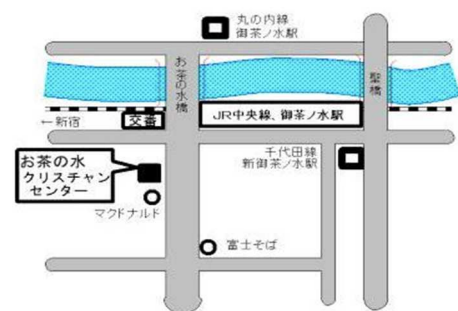
## 6月例会(第382回)のお知らせ

日時: 2018 年 6 月 23 日(土)  
午後2時開演(午後1時半開場)  
会場: お茶の水「クリスチャンセンター」  
(JR「お茶の水」下車・徒歩3分)

例会費: ¥ 2500(会員・一般共)  
お話: 大津 聡氏  
演題: モーツァルト評伝の中のオスミン  
—オペラ《後宮からの逃走》受容の一側面—

概要: モーツァルトのオペラ《後宮からの逃走》の登場人物オスミンは、作品成立当時から今日に至るまで、ひととき異彩を放ってきたキャラクターである。一方、父レーオポルトとの書簡に鑑みても、オスミンという強烈なキャラクターは、単に台本から飛び出してきたものではなく、モーツァルト自身の創造に他ならなかったことが分かる。他方で、モーツァルトの手から離れたオスミンは、19 世紀以降の市民社会において、常に脚光を浴びながらも、長きにわたり、厳しい評価にさらされることとなった。

本講演では、モーツァルト評伝における《後宮からの逃走》についての記述、就中、オスミンについての価値判断を手がかりに、人々がモーツァルトのオペラに何を重ね合わせて観てきたのかを考えます。



宗教法人 お茶の水クリスチャン・センター

〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台2-1

Tel: 03-3296-1001  
Fax: 03-3296-1010

交通: JR: 中央線、総武線、東京メトロ:  
丸ノ内線、千代田線 (駅から徒歩3分)

例会後は恒例の懇親会へのご参加をお待ちしております。  
会場: 「デリ・フランス」お茶の水店 / 03(5283)3051

## \*\*\*\*\* 会員総会のお知らせ \*\*\*\*\*

7 月例会開始前の 7 月 14 日 12 時 30 分より、今年度の会員総会を開催いたします。会員の皆様のご出席をお願いします。

## \*\*\*\*\*

### 人事について

今年度人事に関して(再掲)

澤田会長が定年制により、来年の改選期 4 月に退任予定のため(名誉会長兼理事として、理事会では引き続き活動する予定です)、松永副会長が後任となる予定です。会員総会時に会員の皆様のご承認を得ることが条件です。引継期間として 1 年間は必要であるため、松永氏は 1 年間、会長代行として活動いたします。

今後の例会予定(会場記載がないものは お茶の水クリスチャンセンターです)

7月14日(土) 加藤浩子氏

9月 8日(土) 上野優子氏ピアノリサイタル  
(原宿カーサモーツァルト)

10月20日(土) 樋口隆一氏

11月17日(土) 澤田会長

12月16日(日) 久元祐子氏ピアノリサイタル  
(セレモア立川) 午後3時開演

1月19日(土) 会員出演の新年会

2月23日(土) 池上建一郎氏

3月30日(土) Maristella Patuzziさん・ヴァイオリン・リサイタル(予定)(カーサ・モーツァルト)

2018年5月26日(土) 第 381 回例会

「やり抜く力の達人モーツァルト —“GRIT”による新しい天才論—

高橋徹副会長 講義要旨

本例会では「GRIT」とは何か? 「GRIT」と天才との関係を探る。まず天才は、優れたスキル、記録、業績に大別できる。モーツァルトの天才伝説では、鋭い音感: 1/8 音程の相違を指摘。神業演奏: 鍵盤を布で覆って演奏。即興能力: バリントン卿の前で即興演奏。暗譜能力: システーナ礼拝堂のミゼレーレ伝説。作曲スピード: 3大交響曲の作曲。最年少記録: 黄金の軍騎士勲章授章。作曲方法: 楽器を使わず頭の中で作曲などがある。これらは、スキル

に関する事が多い一方で業績がない。「フィガロの結婚」のヒットや、予約演奏会の活況は、一時的で地域限定の成功だ。18世紀の作曲家の評価は、大きな宮廷の楽長になる事とオペラで成功する事だった。1781年から10年間ウィーン宮廷劇場での作曲家別オペラ上演回数で、モーツァルトは7位。オペラで成功しなかった上に、楽長も経験できなかった。つまり当時の基準では成功とは言い難い。

当時の天才は、高度なスキルを持った人だったが、現代では、偉業を達成した人に与えられる称号である。現代の基準でモーツァルトを評価すると、作曲家別オペラ上演回数等のデータで軒並み上位だった。従って、現代のモーツァルトは、様々なジャンルで多数の傑作を残し、世界中で聴かれるクラシック音楽作曲家の第一人者である。

では、この偉業がどうやって達成されたのか「GRIT」に沿って考える。まず、著者アンジェラ・ダックワースが重要という努力と才能の「達成の方程式」とは、才能と努力によってスキルが培われ、それと同時にスキルは努力によって達成を得るという事だ。モーツァルトでは、才能(音感、演奏能力、即興能力、暗譜能力)は努力により作曲というスキルが培われ、作曲に更に努力を重ねる事で作品の数と傑作が増えた。

「GRIT」は、日本語で「やり抜く力」と言う。構成する要素は、「情熱」と「粘り強さ」の2つ。そして、「やり抜く力」の強い人が偉業を達成する。それでは、先程の「達成の方程式」の「努力」との関係は？「情熱」とは、ひとつの事にじっくりと取り組む姿勢だ。一方、「粘り強さ」は、挫折後の継続の事。この2つから導かれるのは、「生涯をかけ、たゆまぬ努力ができる」事である。「やり抜く力」は、達成の方程式の「努力」と密接である。

「やり抜く力」を構成する「情熱」は、「興味」と「目的」から生まれ、「粘り強さ」は、「練習」と「希望」から生まれる。「情熱」を持ち続けるために必要な「興味」について、モーツァルトの幼年期を見ると、レオポルトは遊びで音楽に興味を持たせた。音と戯れる事から始め、楽器に親しんだ。そして、ごく自然に演奏や作曲への興味が増した。次の段階では外の世界を体験する。6歳で初めて演奏旅行をして、旅先の宮廷や館で多くの演奏会に出演。聴衆を満足させるスキル、好みを感じ取った。また、オペラや演劇をよく鑑賞し、流行や、舞台の全要素を取り込んだ。幾多の出会いで、善悪をつぶさに観察し、後にオペラにおける人間感情的確な表現に繋がった。一方、貴族と会話や晩餐を共にし、褒賞で少しずつ職業としての音楽家を感じ始めていた。

16歳までの旅を追うと、大きな宮廷への才能のお披露目で始まり、その後各地の音楽事情を吸収し、巨匠と出会い直接の指導も受けた。3回のイタリア旅行は、3作品によってオペラ作曲を習得した。こうして、気楽な音楽の初心者「興味」を発見し、旅を経験する事で発展させ、作

曲への「情熱」が醸成された。

次は「目的」を見出し、自分の仕事が重要だと確信すると、常に最高傑作を目指して仕事をする。天職である。モーツァルトの手紙には「情熱」と「最高傑作」が出てくる。作曲が天職だったのだ。

また、同じ「目的」を持った手本となる人物に出会う事も必要であり、ヨーゼフ・ハイドンとの関わりが注目される。モーツァルトがハイドンに惹かれたのは、作曲では弦楽四重奏曲の父、交響曲の父として。一方、人間性では、穏やかな性格、謙虚さ、誠実さなどである。レオポルトに代わって、ハイドンを作曲や人生のお手本として捉えたであろうか？この人のようになりたいと考える事が「情熱」を燃やす。

次は、「粘り強さ」を獲得する「意図的な練習」とは何か？最初に現状を少し上回る目標を設定。第二段階ではその達成を目指して努力をする。第三段階ではできるまで繰り返し練習をする。モーツァルトの「意図的な練習」は対位法の習得、弦楽四重奏曲の作曲、ピアノ協奏曲の自作自演などである。

更に「粘り強さ」を得るため、毎日同じ時間、同じ場所での「習慣」を作る。習慣化する事で意識せず「意図的な練習」を継続できる。モーツァルトは、作曲を朝の2時間と、深夜の2時間と決めており、「習慣」の重要性を認識していた。

次は、「粘り強さ」を生む「希望」で、無力感を乗り越える事が重要である。楽観的に考えると逆境でも粘り強くがんばれる。悲観的に考えると困難な事は最初から避ける。モーツァルトは1778年2月4日、1781年6月2日レオポルトに宛てた手紙で、楽観的で困難に遭遇しても作曲への情熱が衰えない。

「やり抜く力」の達人モーツァルトはどうやって誕生したか。彼が「情熱」を傾けたのは作曲だった。そして、「粘り強さ」は、失恋や母の死があっても作曲を継続した所に感じる。モーツァルトの偉業は、「生涯をかけて、作曲にたゆまぬ努力をした」から達成できたのだ。我々はモーツァルトが作曲を継続した恩恵を大いに享受している。

アンジェラ・ダックワースの父親は、凡庸な我が子は大成しないと悩んだ。「おまえは天才じゃあない」と言われ続けた少女は、やがて、天才賞を受賞する。人生で何を成し遂げられるかは、生まれ持った才能よりも「情熱」と「粘り強さ」によると突き止めて。この本は、新しい天才論だ。最後の一文で「私は・・・」を「モーツァルト」と置き換え結びとする。

天才という言葉で「努力もせずに偉業を成し遂げる事」と定義するなら、モーツァルトは天才ではない。しかし、天才とは「自分の全存在をかけて、たゆまぬ努力によって卓越性を究める事」と定義するなら、モーツァルトは天才だ。

(文責:高橋 徹)

